

ストレスのない環境を整え良質な生乳生産を目指す

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



事業者名:農事組合法人 細越牧場
(三種町豊岡)

代表者 細越 大紀

経営概況

飼養頭数 | 乳用牛約 320 頭

作物 | 牧草(約 75ha)

| WCS 用稲(約 50ha)

構成員 | 10 名(正社員8名、アルバイト2名)

販売先 | JA 全農

県内でも最大規模の乳用牛の飼養頭数を誇る細越牧場で、令和5年に32歳で父親から酪農事業を継承し、町やJA、耕種農家と耕畜連携を図りながら、ストレスを与えない飼育環境を整備し、栄養価の高い飼料を与えて良質で美味しい生乳の生産を目指す若き酪農家の日々の奮闘を紹介します。

▶ きっかけ

幼いころから酪農を営む父親の背中を見てきた大紀さんは、いつかは、酪農経営を引き継ぐと決め、学校が休みの日には、当たり前のように作業を手伝っていたそうです。大学卒業後は、病院の臨床検査技師として働いていましたが、父親の経営規模拡大をきっかけに平成29年、26歳で就農しました。

就農後は、酪農経営のノウハウを習得しつつ、飼養管理技術に磨きをかけたそうです。令和5年、32歳の若さで、父親から事業継承し、現在は、10名の従業員とともに良質な生乳生産に取り組んでいます。



約150頭飼養できる大規模畜舎

水田約50haでWCS用稲の生産体制を整備。牧草については、細越牧場が県所有地と県立大学所有の農地約75haを借り受け、チモシーやアルファルファを作付け、年3回の収穫を予定しています。生産された粗飼料は、TMRミキサーにより濃厚飼料と混合して朝夕2回給餌するそうです。



ストレスなく伸び伸び育つ牛たち

また、獣医師の定期的な巡回や少数で牛の健康状態や繁殖行動、乳量等のデータが確認できる「Afiシステム」を導入し、牛の変化をいち早く発見できる体制を整えています。こうした取り組みにより、一日の搾乳量は約10tとなっています。

▶ これから

近年の飼料価格の高騰が経営を大きく圧迫することから、安定的な飼料確保のため、耕種農家との連携を大切にしていきたい。当面は、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を行い、消費者に安全で良質な牛乳を届けたいと話していただきました。



衛生管理されたミルクングパーラー

▶ 衛生・健康管理の取組

細越牧場では、畜産クラスター事業等、国や県の事業を活用して、衛生管理や搾乳時間の削減を目的にミルクングパーラーやバルククーラー等を整備するとともに、牛にストレスを与えないフリーストール方式の畜舎を新たに2棟増設しました。農事組合法人を設立した平成21年約50頭だった牛は、現在約320頭まで増頭されています。

▶ 飼料生産の取組

国産飼料の供給にこだわり、令和7年産では、町内の耕種農家と連携し、



東北農政局秋田県拠点